

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らいふテラス蛸池		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 11日		令和8年 3月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和8年 4月 6日		令和8年 4月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児の年齢を1歳半から小学一年生までにすることで、この発達年齢に特化した療育が行えているところ。	16時半と17時半の送り時間を設定することで、保護者が選択できるようにしている。そうすることで、年齢が低い子どもの生活リズムにも配慮している。	受け入れている発達年齢の療育のさらなるスキルアップを図っている。
2	個別活動と小集団活動の両方を行っている。	個別活動はついたてを使用し、集中できる環境で行っている。また、担当制にすることで一人ひとりの発達をより丁寧に把握することに努めている。	年度でテーマを決めて毎月研修を行っている。療育に必要なスキルが身につくよう努める。
3	専門職である機能訓練士が常勤で在籍している。	機能訓練士が集団活動を評価し、職員にフィードバックすることで、より良い療育内容につながっている。	機能訓練士による研修などでよりスキルアップをしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園送りの家庭は、直接その日の様子や活動の内容が保護者に伝えられない。	事業所は家庭支援の側面もあるので、できるだけ保護者のニーズにも配慮していく必要がある。	直接会えない場合は、連絡帳の内容をより細かく書くなどの工夫をしていく。また、必要に応じて電話連絡を行うなどの支援もしていく。
2	お昼寝が必要な子どもにとっては、静かな環境ではない。	それぞれの家庭の生活リズムも関係してくるので、個々で対応していく。	園での昼寝後の利用が良いかどうか、保護者と話し合って利用時間を検討する。
3			